



吉原美智恵議員

ボランティア サポートセンターを

現在の体制を強化する

問 2007年から「団塊の世代」と言われる人たちの大量退職が始まる。11月の新聞の世論調査によると、約75%の人が60歳を過ぎても働きたいと答え、その中でボランティア活動に参加したいという人は61%に上がっている。大山町でも、この世代がボランティア活動の新

たな担い手として期待できる。現在、名和地区において、独居老人が246名、110の老夫婦世帯という状況の中で民生委員は25名である。果たして、きめ細かい支援はできているのか。

手助けを考えてみてはどうか。

ボランティア活動の新人は61%に上がっている。大山町でも、この世代がボランティア活動の新

住民と行政のすき間を埋めるべくボランティアサポートセンター設立の

答 (山口町長) 60歳過ぎても働いて収入を得たい人もいる。シルバー人材センターに加え、多種多様なニーズに応えるのも選択肢の一つであろう。現在、社会福祉協議会が「大山町ボランティアセンター」を設立しており、福祉分野を中心に活動している。既存のボランティアセンターを団塊の世代の方々の社会参加の支援も対応できる組織に体制を強化できるものと考えている。ボランティアの皆さんに登録してもらい、今の福祉の分野に限らず、もっと幅を広げた社会福祉協議会のボランティアセンターになっていけば、相



社会福祉協議会の中にある大山町ボランティアセンターのスタッフ

当の部分解決できるのではないかと考えている。

保育所懇談会の目的は

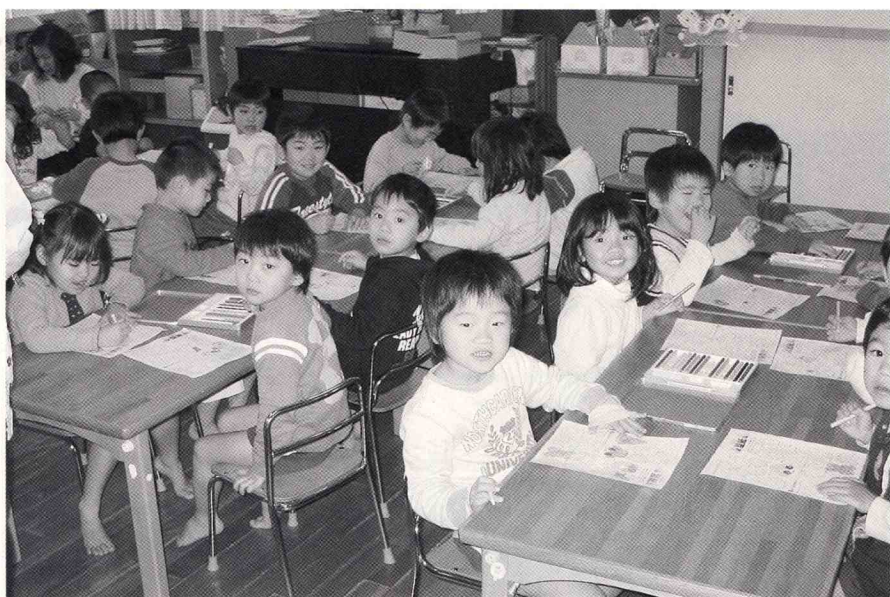
保育行政に反映させる



秋田美喜雄議員

問 町内すべての保育所で教育懇談会が行われた。保護者からいろいろな意見や考えを聞いて意見集約がされたようである。その中で、上中山保育所

答 (山田教育長) 本年度から幼児教育課が保育所を所轄することになった。保護者と幅広く意見交換を行うことがぜひとも必要だと思い、保育所単位で意見、考え



保育所によっては園児数にバラつきがある。

の保護者が不安、不快感を持たれたと聞いている。この懇談会の目的と意図は。

を聞かせてもらっている。また、事務局側の考えも提案した。施設の老朽化、入所園児数の格差、保育室の不足等、いろいろな課題や現状を説明した。

その中で説明不足等、反省すべきことは反省している。多様な意見を参考にし、今後いっそう幼児教育に力を入れていく。